

気仙沼サンマに舌鼓

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県 2会場で開かれた。午前9時半のオープンと気仙沼市から直送のサンマを食べて復興を支援する「たまの旬のさんま祭り」が6日、玉野魚市場（宇野）と三井生協本部店（玉）の

市内の商業関係者らでつをとり寄せ、県内で同様のーやボランティアの玉野高くる玉野さんま祭り推進会 イベントを手掛ける「吉備生ら約80人が炭火で焼き、が主催。両会場計800匹 笹の葉焼さんま」のメンバー カボスと大根おろしを添え

復興支援へ800匹販売 家族連れ列

て1匹500円で販売した。

したたる脂が燃えて焦げないよう、水を吹きかけながら、じっくり焼くのが気仙沼流。三井生協会場では、立ちこめる香ばしい匂いと美しい焼き目に誘われ、買い物客が次々と買い求めていた。昨年に続いて訪れた会社員吉武治郎さん(47)は「長尾は、今季初のサンマ。脂が乗っておいしい」と話した。

売り上げの一部は気仙沼市に寄付され、復興祈念公園の整備に充てられる。推進会の東山明正会長(85)は「玉野もいつ南海トラフ地震に遭うかわからない。大震災を経験した気仙沼との絆を深め、続けていきたい」と話した。

市内2会場で商業関係者ら「祭り」



水を掛けながら気仙沼直送のサンマを焼き上げるスタッフ

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。